

## 中心部・ゾーニング・周遊に対する考え方

### ■ 中心部について

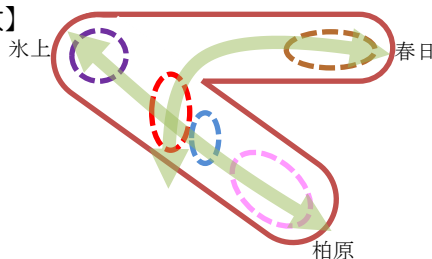
- 中心部は、持続可能なまちの形成に向けて全市的な都市機能の一定の集積を図り、日常的なまちの賑わいを持った、まちの核として位置づけるエリアです。
- 既に一定の都市機能の集積が見られる丹波市都市計画マスタープランで示す、広域拠点（稲継交差点付近を中心とする沿道市街地と氷上町成松周辺及び柏原町柏原周辺の既成市街地）と副拠点（春日インターチェンジ周辺から春日町黒井周辺の既成市街地）を結ぶ区域を中心部として位置づけます。

#### 【考え方の補足】

中心部の考え方としては、新しい「まち」を一から整備するのではなく、都市計画マスタープランを基盤として、既に一定の全市的な都市機能が集積している広域拠点・副拠点（柏原・氷上・春日）を結ぶ広範囲の区域としています。中心部と位置づけた範囲の中は、既に都市施設の集積が見られるエリアもあれば、都市施設の立地が見られないエリアも存在しており、中心部の範囲の全てに都市機能を集積していくものではなく、都市施設の立地状況を踏まえて、既に在る都市機能が持続的かつ有効的にその機能を発揮できるように、ゾーニングによりさらなる機能誘導を図りながら、なだらかに都市機能の強化を図っていく考え方です。

### 中心部とゾーニングのイメージ

#### 【中心部拡大】



ゾーニング	
連携イメージ (地域連携軸)	

### ■ ゾーニングについて

#### (中心部のゾーニング)

- 中心部の範囲全てに高密度な市街地を整備していくのではなく、既存の都市施設の立地状況や周辺環境、さらには、将来のまちづくりに必要不可欠な都市機能の配置や効率的な都市の経営を見据えて、土地利用の目指すべき姿（土地利用ゾーニング）を設定し、ゾーニングに適した都市施設の立地誘導を図ります。

- ・ゾーニングにより各ゾーンの全市的な機能分担を明確化し、各ゾーンをつなぐ連携軸を強化することで、行政・商業・医療・福祉・観光などの機能の充実を図り、都市として一体的なまちの活力を創出するとともに、生活利便性が高いまちの形成をめざします。
- ・中心部内の地域（柏原・氷上・春日）の生活機能は、それぞれの地域拠点が機能を補完します。

（区域のゾーニング）

- ・中心部以外の区域（西部区域、東部区域、南部区域）では、青垣・山南・市島の地域拠点が日常の生活機能を支える拠点として生活機能の維持を図ります。
- ・既存の施設やインフラを活かし、都市機能の一定の集積が見られる市街地及びその周辺を「生活関連サービス集積ゾーン」として位置づけます。
- ・生活関連サービス集積ゾーンにおいては、一定の行政機能や地域コミュニティ機能等を持つ複合施設である住民センター（支所）を拠点として、普段の生活に必要な行政、生活サービス、医療、福祉機能の維持を図り、周辺地域も含めた都市機能サービスを提供する役割を担います。

【考え方の補足】

ゾーニングの考え方としては、一箇所に全ての機能を盛り込むのではなく、今ある都市施設の立地の特徴を活かして、中心部には、「商業業務ゾーン」「医療福祉ゾーン」「行政ゾーン」「文化芸術ゾーン」「交流連携ゾーン」を配置するとともに、周辺部の区域には、日常生活に必要な不可欠な各種サービスを周辺区域も含めて提供する機能の維持を図るために、「生活関連サービス集積ゾーン」を配置します。

■周遊について

- ・中心部における全市的な都市機能サービスを楽しむことができるよう、中心部内はもとより、各ゾーニング間や中心部と周辺部や、さらには、市内から市外への移動についても、自家用車だけでなく公共交通機関によってアクセスが容易である移動環境を確保し、「まちを見る・巡る楽しさ」も感じられる市街地の形成をめざします。

【考え方の補足】

周遊の考え方としては、広大な市域を有する本市において、都市を巡る周遊機能を構築していくためには、新しい交通手段を導入していくのではなく、既に整備されている鉄道や路線バス、デマンド（予約）型乗合タクシーなどの交通資源を有効かつ移動のニーズに応じて便利に利用されるよう、各交通手段の特性を活かした連携強化を図ります。